

言語通級指導教室 学習指導案

1. 単元名

「ラ行音・ダ行音・拗音を正しく発音しよう」

教材名

「ケーキ屋さんごっこをしよう」

2. 児童の実態

小学校3年生である。1年生より、週1回（1時間）言語通級指導教室に通級している。

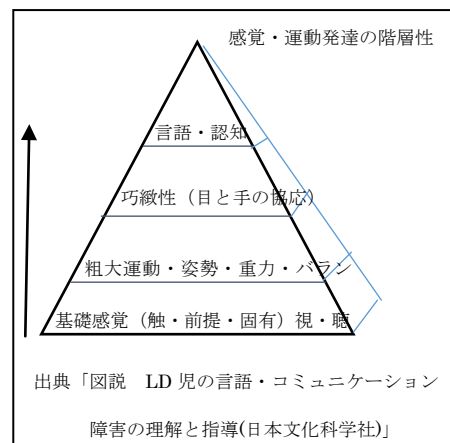
本児はことばの領域においては、「発声・発語」「コミュニケーション」の2つの領域に課題があると考えられる。「発声・発語」においては、発声・発語器官に明らかな異常を認めないにもかかわらず、構音に誤りがあるため、機能性構音障害であると考えられる。その原因として、舌の巧緻性の低さと幼少期の周囲とのかかわりやコミュニケーション不足が考えられる。「コミュニケーション」においては、冗談などの理解や、相手や状況にふさわしい言葉を選ぶことが困難な面もある。

入級当初の構音器官の観察では、舌の形状等、発声・発語器官に明らかな異常は認めないのだが、頬をふくらませたりへこませたりすることができず、舌運動の巧緻性も低く、舌の脱力や舌を拳上して保つことなどがうまくできないなど、口腔の随意運動の弱さがみられた。そして、座ったまま背筋を伸ばした状態を保つこと、背中をそらした状態を作ることがうまくできず、トランポリンを膝を使って跳ぶことや縄やフープを使った運動をすることもうまくできない等、体幹の機能の未熟さもみられた。また、ドミノ並べではすぐに倒してしまい、筆圧が弱く、整った字が書けないなど、手指の協調運動にも弱さがみられた。

構音検査は、「改訂版 構音検査（千葉テストセンター）」を用いた。構音の異常箇所は、ロ音⇔ド音、レ音⇔デ音、リ音⇒ジ音、ラ音⇒ダ音、キュ音⇒ツ音、シャ音⇒サ音、ギユ音⇒ズ音、ジャ音⇒ザ音、ジュ音⇒ズ音である。

指導に当たっては、本児のみならず、児童が楽しみながら訓練できるように工夫をしたいと考えている。構音指導では、お菓子を使った舌、口の体操やスポンジボール吹きなど楽しく取り組める教材を工夫している。また、言葉遊びや本読み、すごろく遊びなど、語彙を増やししながら自己表現力を高めていけるようにして、語彙を増やすような言葉の学習も取り入れている。そして、毎回「お話タイム」の時間を設定し、自分が経験したことや思っていることを伝えるコミュニケーション指導をしている。また、わからない時など気持ちを言語化できるように言葉の力をつけていき、困り感を受容しつつ、自己肯定感を高め、情緒の安定を図りたいと考えている。そして、苦手なことにもチャレンジしていけるよう1時間の指導内容を仕組み、課題をやりきることによって充実感、達成感を味わわせたいと願っている。

また、感覚、運動発達には、右図のように階層性がある。この図から、体幹や手指の不器用さは、コミュニケーションや構音など言語の領域にも影響すると考え、体幹や手指を使った活動を取り入れることは、言語の機能を高めることにもつながると仮説を立て、トランポリンなどの運動や紙工作などの活動も行いながら、教師とのやりとりを図っている。



本児の指導に当たっては、入学当初の本児の実態から、1年生時には、頬、舌、口の随意運動を高める指導を行った。また、ダ行音とラ行音の混同やダ行音とラ行音の発音に曖昧さがあるので、ダ行音とラ行音の舌の動きを中心とした舌の巧緻性を高める構音指導やランゲージマスター器を用いた語音弁別訓練を行った。また、トランポリンやフープなどの全身運動を取り入れ、体幹の機能を高めていった。

2年生時には、1年生時の訓練にプラスして、正しく聴きとる力を高めるために聴写を取り入れ、ラ行音とダ行音の混同をなくす練習を繰り返してきた。また、シャ行音など課題音となる拗音の構音訓練も行っていた。そして、全身運動に加えて、書く活動や折り紙、アイロンビーズを使った作品作りなど手指を使った活動も取り入れてきた。

本児の現在の実態について、自立活動の6区分26項目で整理してみると、下の表のようにまとめることができる。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
良好である。	課題を困難に感じると、怒ったり泣いたりすることがある。	友達とのかかわりにおいて、誤解を招く言動や一方的な思い込みなど、うまく対処できないことがある。	ラ行音，ダ行音，拗音を聞き分けることはできてきた。	手指や体を動かすことが不器用。筆圧が弱く、整った字を書くことが苦手。	ラ行音の発音が曖昧なことがある。単語や会話の中で、デ音とレ音の言葉の混同がある。拗音の発音にも時折誤りがみられる。出来事を思い出して伝えることが苦手。

そこから本児のつまずきとして、主に次の3点が考えられる。①ラ行音の発音が曖昧なことがあり、特にデ音、レ音の言葉の混同がある。拗音の発音も曖昧で、シャ行音→サ行音、ジャ行音→ザ行音、チュ音→ツ音などの誤りがある。②出来事を思い出して伝えることが苦手である。③自信をもって最後まではっきりと話すことが難しい。

本児は、発音時、ラ行音とダ行音の混同や、課題となる拗音がうまく発音できないことがあるが、音を正確に聞き取ることはほぼできてきた。また、これまでの口腔訓練や発音練習等により、発音の誤りもずいぶん改善されてきた。しかし、「プラモレル（プラモデル）」「どでれも（どれでも）」など、語頭、語中、語尾に限らず、文中や会話では、まだまだデ音とレ音の混同がみられる。そこで、引き続き、ラ行音やダ行音、拗音を含む言葉や文章を発音練習したり、聴写したりするなどして、正しく覚えていけるように指導している。3年生になって、ラ行音とダ行音、シャ行音など、獲

得してきている構音を会話や生活の中で搬化させていくことをはじめている。1学期には、ままごとセットを用いてごっこ遊びや、紙工作で作った指人形を使ったごっこ遊びを取り入れた。

3. 単元について

1学期には、紙工作で指人形を作り、ごっこ遊びを行った。はさみの使い方や紙の折り方、のりづけの仕方など、作業工程を分割し、一つ一つの作業に集中して丁寧に行えるように指導した。本児はそれぞれの作業が自分できちんとやりきれたことを喜び、自信につながったようで、練習用紙に自分でも適当に線を引いてはさみで切って、うまく切れるかどうかを試してみる様子があった。指人形のごっこ遊びは、自分で製作したものであることに加えて、これまでの経験が少なかったこともあって、非常に興味をもって好んで行い、楽しむことができたものと考えられる。本児にとって、ごっこ遊びで言葉によるやりとりを行うことは、つまずきの克服に向けての有効な手段の一つであると考えた。

そこで、ごっこ遊びの中に課題音であるラ行音・ダ行音・拗音の言葉を意図的に取り入れ、コミュニケーションをする必然的な場をつくるために、2学期は「ケーキ屋さんごっこをしよう」という単元を設定した。商品となるケーキを自分で小麦粘土で製作したり、看板などを書いたりすることにより、手指の訓練にもつながる。そして、教師と一緒にケーキ作りを行う中でのやりとりやお客さんとのやりとりを通して、コミュニケーションの力をつけたり、ケーキ屋さんになりきって正しく伝えようとする気持ちをもったりすることができると考えた。また、実際にケーキ店で働く店員さんの、お客さんに対する話し方や注文の聞き方をビデオで観ることにより、適切な話し方や聞き方にも気をつけてやりとりができることを願っている。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	情緒の安定に関すること	自己の理解と行動の調整に関すること		作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	言語の受容と表出に関すること

主な指導内容	・ <u>ショート</u> ケーキ, <u>チョコレート</u> ケーキ, <u>デコレーション</u> ケーキ, モンブランなどラ行音, ダ行音, 拗音を使った単語や文を使うような場面や活動を意図的に多く仕組むことにより, 他の場面における般化, 定着につなげる。	・お店屋さんの適切な話し方を考えて「ケーキ屋さんごっこ」のやりとりをすることにより, コミュニケーションの力をつけ, できたという経験と自信をもたせ自己肯定感を高める。	・商品となるケーキを小麦粘土で工作したり, 商品名や看板などをお客さんに見やすいように書いていたりするなど, 手先を使った作業を一つ一つ丁寧に行うことへの意識を高める。
--------	---	--	--

4. 単元指導計画

(1) 目標

- ・ ケーキ屋さんごっこのやりとりの中で，ラ行音，ダ行音，拗音の言葉を正しく発音したり書いたりすることができる。[6-(2)]
- ・ ケーキ屋さんごっこのやりとりを通して，課題音を含む言葉が相手に伝わった喜びを感じたり，適切な話し方をしたりすることで，会話を楽しむことができる。[3-(3)][6-(1)(2)]
- ・ 指先を使って小麦粘土でケーキを作りながら，会話を楽しむことができる。[5-(5)][6-(1)]

(2) 計画（全8時間）

時	ねらい	主な学習活動	評価規準
1	・ ケーキ屋さんに売っている商品やお店屋さんごっこに必要なものを考えて言葉で表現することができる。	・ お話タイム ・ 口腔訓練，発音練習 ・ お店屋さんの絵本や絵カード，ケーキ屋さんの写真やビデオを見て，ケーキ屋さんごっこをする見通しをもつ。 ・ ケーキの種類（名前）やお店に必要なものを具体的に考える。 ・ ふりかえり	・ ラ行音，ダ行音，拗音の言葉を正しく発音している。[6-(2)] ・ 商品や必要なものを考えて，言葉で伝えている。[6-(2)]
2 3	・ 指先を使って小麦粘土でケーキを作りながら会話を楽しむことができる。	・ お話タイム ・ 口腔訓練，発音練習 ・ 小麦粘土でケーキを作る。 ・ ふりかえり	・ ラ行音，ダ行音，拗音の言葉を正しく発音している。[6-(2)] ・ 小麦粘土で丁寧にケーキを作りながら，会話を楽しんでいる。[5-(5)][6-(1)(2)]
4 5	・ ラ行音とダ行音の言葉の混同に気をつけてお客さんにわかりやすいよう看板や商品名を書くことができる。	・ お話タイム ・ 口腔訓練，発音練習 ・ お店に必要な看板やデコレーションケーキ，ぶどうジュースなどの商品名を書く。 ・ ふりかえり	・ デコレーションケーキ，ぶどうジュースなどのラ行音，ダ行音，拗音の言葉を正しく，丁寧な字で書いている。[6-(2)]
6	・ ケーキ屋さんごっこのやりとりの中で必要なせりふや適切な話し方，聞き方を考えることができる。	・ お話タイム ・ 口腔訓練，発音練習 ・ ケーキ屋さんのビデオを見て，お店屋さんとお客さんのやりとりを考える。 ・ お店屋さんで言わなければならないセリフを文に書き，課題音にシールを貼る。 ・ 課題音に気をつけてお店屋さんのやりとりをする。 ・ ふりかえり	・ ケーキ屋さんごっこで必要なせりふや適切な話し方，聞き方を考えている。[3-(3)][6-(1)] ・ ラ行音，ダ行音，拗音の言葉を正しく発音している。[6-(2)]

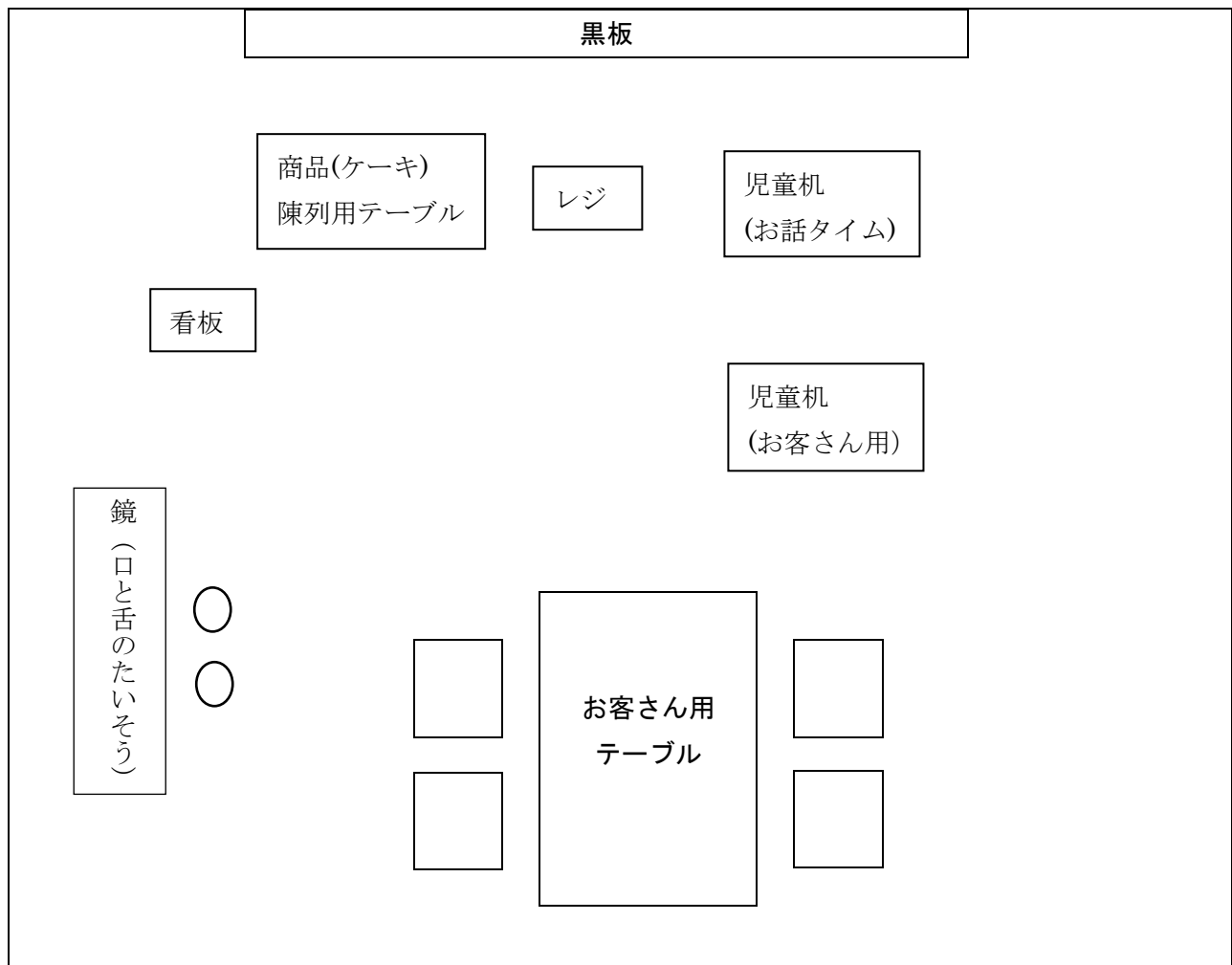
7 本時	・ ケーキ屋さんごっこのやりとりの中で、ラ行音やダ行音、拗音の言葉を明瞭に発音することができる。 ・ ケーキ屋さんごっこのやりとりを通して、相手の目を見て最後まではきはきと話したり聞いたりして、適切な話し方や聞き方で会話を楽しむことができる。	・ お話タイム ・ 口腔訓練，発音練習 ・ 小麦粘土で作ったケーキや看板など「ケーキ屋さんごっこ」の準備をする。 ・ 「ケーキ屋さん」を開店し、ラ行音・ダ行音・拗音の発音に気をつけながら、お客さん（先生）とやりとりをする。 ・ 参観の先生にもお客さんになってもらい、やりとりをする。 ・ ふりかえり	・ ラ行音，ダ行音，拗音の言葉を正しく発音している。[6-(2)] ・ 相手の目を見て最後まではきはきと話したり，注文の品名や個数などの必要なことを聞き取ったりしてやりとりしている。[3-(3)][6-(1)(2)]
8	・ ケーキ屋さんごっこを思い出して会話や気持ちなども入れて順序よく作文に表すことができる。	・ 口腔訓練，発音練習 ・ ケーキ屋さんごっこをしたことを思い出し，話す。 ・ 話したことをもとに，ミニ作文を書く。 ・ ふりかえり	・ ラ行音，ダ行音，拗音の言葉を正しく発音している。[6-(2)] ・ ケーキ屋さんごっこの言語活動を思い出し，作文に書いている。[6-(1)(2)]

5. 本時の（１）目標及び（２）評価規準

- （１）・ ケーキ屋さんごっこのやりとりの中で，ラ行音やダ行音，拗音の言葉を，誰が聞いても明瞭な発音で話すことができる。[6-(2)]
- ・ ケーキ屋さんごっこのやりとりを通して，相手の目を見て最後まではきはきと話したり聞いたりして，適切な話し方や聞き方で会話を楽しむことができる。[3-(3)][6-(1)(2)]
- （２）・ ラ行音やダ行音，拗音の言葉を正しく発音している。（発音練習・ケーキ屋さんごっこ）[6-(2)]
- ・ 相手の目を見て最後まではきはきと話したり，注文の品名や個数などの必要なことを聞き取ったりしてやりとりしている。（ケーキ屋さんごっこ）[3-(3)][6-(1)(2)]

6. 本時の展開（別紙）

7. 環境設定図



5. 本時の（１）目標及び（２）評価規準

- (1)・ケーキ屋さんごっこのやりとりの中で，ラ行音やダ行音，拗音の言葉を，誰が聞いても明瞭な発音で話することができる。〔6－(2)〕
- ・ケーキ屋さんごっこのやりとりを通して，相手の目を見て最後まではきはきと話したり聞いたりして，適切な話し方や聞き方で会話を楽しむことができる。〔3－(3)〕〔6－(1)(2)〕
- (2)・ラ行音やダ行音，拗音の言葉を正しく発音している。（発音練習・ケーキ屋さんごっこ）〔6－(2)〕
- ・相手の目を見て最後まではきはきと話したり，注文の品名や個数などの必要なことを聞き取ったりしてやりとりしている。（ケーキ屋さんごっこ）〔3－(3)〕〔6－(1)(2)〕

6. 本時の展開

	ねらい	主な学習活動	指導・援助
ポイント①(児童が興味をもって取り組み，満足感，充実感がもてる学習活動の工夫) 訓練的でなく，児童が意欲的に取り組める活動を設定することで，苦手な音の発音にも積極的に取り組むことができるようにする。	導入 ・本時の学習メニューを確認し，見通しをもつことができる。 ・自分が楽しかったことや心に残っていることを先生に伝えることができる。 展開 ・舌の位置や口形を確認しながら，スムーズな舌の動きにしていけることができる。 ・本時の課題を理解し，課題音を意識して発音しようという意欲をもつことができる。 ・レ音とデ音の発音を区別して正しく発音できる。 ・ふんわり舌で拗音の練習ができる。 ・「ケーキ屋さんごっこ」の準備をし，「ケーキ屋さん」を開くことができる。 ・ラ行音やダ行音，拗音の言葉を明瞭に発音することができる。 ・相手の目を見て最後まではきはきと話したり聞いたりして，適切な話し方や聞き方で会話を楽しむことができる。 ・ケーキ屋さんごっこのやりとりのテープを聞いて，正しく発音できているかどうか，自分で確かめることができる。	1 今日の学習メニューを知る。 2 「おはなしタイム」 ・自分の経験した「話題」をいつ・どこで・だれが・何をした・どうなったか・思ったことなどを入れて話す。 3 「口と舌のたいそう」 ・口を大きく開けて閉じる ・唇をとがらせて，引く。 ・ふんわり舌作り ・舌先の上下 課題 ラ行音，ダ行音，小さいやゆよのつく言葉の発音練習をして，正しい発音で話しながらケーキ屋さんごっこをしよう。 4 「発音練習」 ・レ音・デ音の単語（ <u>ど</u> れでも， <u>デ</u> コ <u>レ</u> ーション， <u>チ</u> ョコ <u>レ</u> ート など）練習をする。 ・拗音の単語（ <u>い</u> ら <u>っ</u> し <u>ゃ</u> い， <u>い</u> っ <u>し</u> ょ， <u>ジュ</u> ース， <u>ち</u> ゅうもん など）練習をする。 5 小麦粘土で作ったケーキや看板など「ケーキ屋さんごっこ」の準備をする。 6 「ケーキ屋さんごっこをしよう」 ・お店を開店し，課題音の発音に気をつけながら，お客さん（先生）とやりとりをする。 ・やりとりの録音を聞き，課題音が発音できていたかを確かめる。 ・参観の先生にお客さんになってもらい，やりとりをする。 7 本時のふりかえりをする。 ・ケーキ屋さんごっこのやりとりの録音を聞き，課題音の自己評価をし，自分のがんばったことを話す。 ・先生の話聞く。 ・次時の見通しをもつ。	・学習内容をカードで掲示し，伝えることで，児童に見通しをもたせる。 ・出来事などをうまく伝えられないときには，こちらから質問をするなどして共に考えていく。 ・ラ行音発音時のカール舌，ダ行音発音時のスタンプ舌，拗音発音時の脱力した舌など，鏡を見たり，先生の口を模倣したりしながら舌の位置や口形を確認し，正しく発音できるようにする。 ・「 <u>いっし</u> ょに， <u>の</u> みものは <u>い</u> かが <u>で</u> すか。」「 <u>ど</u> れでも <u>10</u> 円 <u>で</u> す。」など，ケーキ屋さんごっこに必要なことばを，発音に気をつけて最後まで話せるように，前時に作成したセリフカードを準備しておく。セリフカードには，自分で気を付けたい課題音にシールを貼っておき，自分でも評価ができるようにする。 ・「〇〇ケーキを〇個ですね。」と注文を確認させることにより， <u>ショ</u> ートケーキ， <u>チ</u> ョコ <u>レ</u> ートケーキ， <u>デ</u> コ <u>レ</u> ーションケーキ等の課題音を含む言葉を意図的に発音させる。 ・発音がうまくできていないときには，こちらから首をかしげるなどの反応を示して，できていないことを伝える。それでも，発音ができていないことに気づけない時にはこちらから指摘し，ゆっくり言い直しをさせることにより，正しく発音することを意識させる。 ・先生とのやりとりの中で，課題音の発音ができたかどうかを自分で確かめるために，やりとりを録音したものを聞いて振り返り，それを生かして，お客さんとのやりとりをすることができるようにする。 ・対応の仕方がわからなくなったときには，対応の仕方を一緒に確認することで気持ちを落ち着かせていく。 ・お客さんとのやりとりの中で，課題音の発音ができたかどうかを自分で確かめるために，やりとりを録音したものを聞いて確かめ，上手に発音できた課題音にシールを貼って，認めていく。
ポイント③（課題音を定着させるための工夫） 1回目（教師とのケーキ屋さんごっこのやりとり）の後，教師と一緒に振り返り，評価した後，2回目以降（参観者の先生方とのやりとり）にそこに気をつけて行い，再度評価をする。	まとめ ・自分の発音や話すことに自信を持つことができる。		

ポイント②（般化につなげる活動の工夫）
ケーキ屋さんごっこのやりとりの中に課題音を意図的に仕組むことにより，課題音を含む会話の訓練を行う。

ポイント④(効果的な自己評価の在り方)
録音した自分の声を聴き，自分で正誤判断できるようにする。
テープレコーダー，ＩＣレコーダー，ランゲージマスター器，タブレット，パソコンなど，ねらいに応じた，その子にとって理解しやすい適切な機器を活用する。

ポイント⑤(効果的な評価の在り方)
セリフカードにシールを貼り，できたことが児童自身に理解しやすい評価方法で，今後の意欲につなげる。